

# 持続可能な社会の探究 I 生命・医療・衛生

保健体育科 佐藤 健太  
理科（生物） 毛内 清香

## 1. はじめに

本講座では、生命・医療・衛生に関連するグローバルな諸課題について探究活動を行った。主に1学期には、生徒が多角的な視点で探究活動を実践できるよう、専門家による講義やフィールドワーク（以下、FW）を企画して支援した。具体的には、6月にお茶の水女子大学の森美香教授による「心身の健康に関する心理学的アプローチ」、同大学の赤松利恵教授による「格差を広げないためには、どのような食育が必要か」の講義を実施した。FWでは、4月に目黒寄生虫館において寄生虫研究の歴史や標本の展示見学、5月にJICA地球ひろばにおいてSDGsに関する解説と「発展途上国（ニカラグア）における医療支援について」の講義と展示見学、国立健康・栄養研究所において「健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けた取組」の講義と施設見学、7月には第一三共ぐすりミュージアムにおいて医薬品の開発過程や医薬品研究の最先端についての解説と展示見学、10月には希望者対象で東京大学医科学研究所を訪問し、東京大学の堤武也准教授による「感染症研究（医療支援）について」の講義と研究室の見学を行った。

夏休みにはプレ論文の執筆を課した。これは昨年度の取り組みを踏襲し、生徒が自身の探究テーマを多角的に捉え、2学期以降の探究活動の方向性を定めることをねらいとしたものである。1学期の学習をふまえ、探究テーマに関連する書籍を2冊以上読んで執筆するよう指導したところ、事後のアンケートでは後々の探究活動に効果的であった声が聞かれた。

2学期以降は探究テーマの具体化や修正を行い、グループ単位で書籍、インターネット、FW、アンケート調査等による情報収集をさらに進めた。得られた情報をまとめ、冬休みには本論文を執筆し、課題解決のために有効なアプローチについて考察を深めた。

3学期には年間の探究活動の総まとめとして、成果物の作成、探究成果の発信や啓発活動に取り組み、それらを講座内発表会で共有した。発表会では探究活動の成果や取り組みに対する相互評価を実施した。またグループ単位で執筆した本論文を講座論文集としてまとめたものを配布し、相互に論文を読み合った。

## 2. 本時の活動

### 2.1 午前部

2年生「持続可能な社会の探究 I」の各講座代表生徒による成果発表を大学講堂にて行った。本講座からは「小児病棟におけるプレイルームの再構築」のテーマで代表生徒3名が発表を行った。



図 2.2.1-1 講堂発表の様子

## 2.2 午後部

講座ごとに分かれ、探究活動の進め方に関する1,2年生間での意見交換を行った。参加者は今年度本講座を受講した2年生19名（1名欠席）、次年度本講座を受講する1年生20名の計39名であった。

午後部の流れは以下の①～③の通りである。

- ① 2年生代表グループによる、探究成果の発表（計4グループ）

発表内容はそれぞれ「心のケア」「感染症について」「健康寿命延伸のための10代の食生活の改善」「先進国と途上国の医療格差改善のための方策と課題」であった。

- ② 1,2年生間の意見交換（探究活動の心得の伝達）

昨年同様、1,2年生混合の6～7名ずつ6班を編成し、班ごとに10分間×2タームの意見交換を行った（タームごとにメンバーの入れ替えを実施）。その際、2年生は1年生へ4つの項目（探究テーマ設定について・FWのコツ・成果物の形態の工夫・1学期にすべきこと）を必ず伝えること、1年生は必要に応じて適宜メモを取り、質問や相談を行うことを指導した。

- ③ ワークシートを用いた本時の振り返り



図 2.2.1-2 異学年交流の様子

## 3. まとめと今後の課題

午後部では、昨年度先輩から助言を受けた2年生が、今回は後輩である1年生に助言を与える立場となり、比較的スムーズに情報提供ができていた。また、1年生も今後の探究活動をより質の良いものにするために積極的に質問を投げかけてメモをとるなど、和やかかつ活発な意見交換に参加する姿が見られた。

異学年交流の効果を測定するために、昨年度と同様にワークシートを用いて本時の取り組みを5段階（5が最高値）で自己評価させた。1年生においては、「自分なりの疑問や課題に感じていたことを解消することができた」に対する回答平均値は4.20（昨年度、同3.90）、「意見交換を通じて探究の具体的なイメージをもてた」に対する回答平均値は4.45（昨年度、同3.95）であった。自由記述欄にも、「探究活動がどれだけ自主に任されているかを感じた」「PDCAサイクルの重要性を学んだ」といった気づきや、「広い範囲で本を読んでおこうと思った」などの見通しをもつ声も見られた。2年生からは「意見交換を通じて1年間の取り組みを振り返ることができた」に対する回答平均値は4.5（昨年度、同4.17）で高い数値となった。「探究Ⅱに向けて、英語のスキルを上げたい」「プレゼンの能力をもっと高めたい」など、3年次の『持続可能な社会の探究Ⅱ』に向けた前向きな記述が見られた。

一方で、2年生のコメントの中に、「グローバルな視点が欠如した」といったものも見られた。自身の取り組みたいテーマにこだわるあまり、グローバルな観点が置き去りになってしまったのは指導上の課題といえよう。